

障害者雇用を拡大

自動車部品メーカーのツルタ製作所



障害者従業員が製造現場で活躍している

同社は2007年ごろから、障害者雇用を本格的に取り組んでいる。愛知県立安城特別支援学校(安城市)や岐阜県立可茂特別支援学校(美濃加茂市)など、学んだ知的障害者を採用している。継続的に採用を行っており、従業員の年齢層も19〜35歳と幅広い。

障害者は、健常者と同じ現場で製造業務に従事している。ロボットによる入ポート溶接、目視による外觀検査などの業務を担っている。例えば、溶接工程では、製品の種類に応じて治具を用意し据え付ける。端末の操作も行う。現場の責任者

全体の5%に 健常者と同じ現場 評価基準を適用

自動車プレス部品メーカーのツルタ製作所(本社刈谷市)は、障害者雇用を力を入れている。特長は、健常者と同じ製造現場での業務を任せているほか、従業員一人一人の賃金と能力などを定める等級制度も同じ仕組みで運用している。全従業員(約250人)の5%に当たる14人の障害者が、製造現場を支える重要な存在になっている。

(勝又佑記)

が障害者の障害の特徴に応じて丁寧な指導している。鶴田昌宏会長は「障害者従業員は集中力に優れている。不良品も少ない」と評価している。

社員の処遇を決める等級制度も、障害者と健常者を分け隔てせず運用している。障害の有無ではなく、

社員一人一人の能力や成果に応じて評価している。障害者の働きぶりを支えているのが、先輩が後輩を手厚く指導する企業風土だ。先輩に「ブラザー」との呼称を設け、障害の有無に限らず、先輩が後輩を対面で懇切丁寧に指導することを制度化している。継続的に障害者を雇用することで、障害に応じた配慮など工夫すべき点などを学び、引き継ぎ、組織的な知見とすることも可能になっているようだ。

また、障害者の入社前には1週間から1カ月ほどインターンシップ(就業体験)を行う。適性を見極めながら、入社後に円滑に社内になじめるようにしている。障害者の両親を対象にした職場見学会も定期的に行うことで、従業員やその家族も安心してもらえるよう努力している。



2024年(令和6年)

4月22日 月曜日

発行所 中部経済新聞社 〒450-8561

名古屋市中村区名駅4-4-10
 編集局 052(561)5212
 販売部 052(561)5216
 広告部 052(561)5213
 事業部 052(561)5675
 総務部 052(561)5215
 東京支社 03(3572)3601
 ©中部経済新聞社2024

購読のお申し込み 0120・605・123

音と映像で人をつなぐ

教育産業株式会社

映像・音響・コンピュータ販売 レンタル
 システム設計・施工、映像ソフト制作
 本社 名古屋市中区丸の内三丁目二番二八号
 電話 052・977・3012

http://www.ksg.co.jp

中部経済新聞

2024. 4. 22